

創作と鑑賞のインタラクション： 俳句創作が俳句と水墨画の美的評価に与える影響

Interaction between Creation and Appreciation: How Haiku Creation Impact on Aesthetic Evaluation of Haiku and Suibokuga

櫃割 仁平^{1,2}, 野村 理朗¹
Jimpei Hitsuwari, Michio Nomura

¹京都大学, ²日本学術振興会
Kyoto University
hitsuwari.jimpei@gmail.com

概要

In psychology of aesthetics, compared to appreciation, there are fewer studies on art creation. Therefore, this study aims to examine the influence of art creation on appreciation using haiku poetry with reference to the Mirror Model—a model combining creation and appreciation. Although the model has been used to examine visual arts, we examine its applicability to linguistic arts. The 115 participants were divided into two conditions—creation and control. The former created haiku, while the latter did not create. The results showed no improvement in evaluation through creation. Additionally, recognizing the difficulty of creation leads to beauty, and this relationship is mediated by awe. These results expand the model in terms of the different art genres.

キーワード：俳句, 審美性, 鑑賞, 創作, 畏敬の念

1. はじめに

本邦の教育課程に組み込まれており(文部科学省, 2017), 誰もが創作経験のある芸術が, 世界最短の詩俳句である。俳人の黛まどかが「俳句は実作と同時に鑑賞が必要です。実作力と鑑賞力は車の両輪です。実作の力が上がればおのずと鑑賞力上がってくる。」(黛・茂木, 2008)と述べるように, 俳句において創作と鑑賞は密接に関係している。教育場面においても, 鑑賞だけでなく, 創作も一体となって俳句を理解し, 楽しむ重要性がしてきされている(植阪・光嶋, 2013)。近年, 俳句鑑賞に関する研究が蓄積されつつある一方で(Belfi et al., 2018; Geyer et al., 2020a, 2020b; Hitsuwari & Nomura, 2022a, 2022b), 俳句創作に関する研究はほとんど存在しない。

その傾向は俳句に限ったことではなく, 審美性の心理学領域一般においても同様で, 芸術鑑賞と比較して, 芸術創作に関する研究は少ない(Matsumoto &

Okada, 2021a)。そんな中, Tinio (2013) は, ミラーモデルと呼ばれる鑑賞と創作のインタラクションを反映した美的体験モデルを提案した。このモデルは, 既存の創作モデル(Mace & Ward, 2002)と鑑賞モデル(Leder et al., 2004)を組み合わせたように構築されている。美的体験は作品の表面的な特徴を認識することから始まり, 作品に秘められた意味や文脈を認識し, さらに個人的な関連性のある概念を把握したときにピークを迎えるとされ, このプロセスが創作体験の鏡写しになっているという。つまり, 創作では逆に個人的な関連性のある概念から創作が始まり, それを作品に落とし込んだり, 拡張したりするようになり, 最後に表面的な調整や仕上げが施される

このモデルの登場以降, 芸術創作と鑑賞を合わせて検討する動きが活発になり(Ishiguro & Okada, 2021), 実証研究も進められている。例えば, Specker et al. (2017) は, 研究室と美術館において, 鑑賞者の発言を収集し, ミラーモデルで提案されている順序で鑑賞が起こっているか検討した結果, たしかにミラーモデルを支持しうる鑑賞過程であったが, 参加者のモチベーションによっても, 結果が変わりうるなど, モデルの改善が必要であることが示唆された。また, 創作にも焦点を当てた研究としては, Matsumoto & Okada (2021a) が, 創作が鑑賞に与える影響を実証的に検討した。彼らは, 鑑賞の前に折り紙創作を行った群は行っていない群に比べ, 創作折り紙の好感度と感嘆を高く評価し, 創作困難さの認識と感嘆の正の相関を示した。

本研究では, この先行研究を参考にして, 創作が鑑賞・評価に与える影響を検討する。その題材として, 俳句に着眼する。俳句は3つの理由から本研究に適していると考えられる。1つに, 先行研究では, 主に絵画や折り紙の写真といった視覚芸術が扱われ,

言語芸術については検討されていないことが挙げられる。ミラーモデルが言語芸術にも適用されるか検討し、モデルの更なる精緻化を試みることができる。2つ目に、本邦の教育課程において、ほとんどの人が、創作経験があることが挙げられる。3つ目に俳句は世界最短の詩歌と言われており (Iida, 2008), 短時間で創作を行うことも可能なため、参加者の集中力を保った上で、創作と鑑賞を行うことが可能であることが挙げられる。また、鑑賞では、視覚芸術である水墨画の鑑賞も行うことによって、1つの芸術ジャンルの創作が他のジャンルの鑑賞体験にも影響を及ぼすか(般化)を検討することにより、先行研究の拡張を試みる。

2. 方法

本研究は、京都大学大学院教育学研究科倫理審査委員会の承認を得た(受理番号 CPE-488)。

2.1. 参加者

ClowdWorks を用いてリクルートした参加者 125 名が zoom を用いたオンライン実験に参加し、無作為に創作群と統制群の 2 群に分けられた。IP アドレスが重複していた参加者、回答時間が極端に短い参加者、プレポスの ID が一致しない参加者を除いた創作群 60 名、統制群 60 名、計 115 名 ($M=38.78$, $SD=11.50$, 女性 73 名, 男性 38 名, その他 4 名) を主な分析対象とした。

2.2. 刺激

本研究では、メインの研究対象である俳句と、創作効果の般化を検討するための水墨画、統制群が創作の代わりに評価を行う標語を用意した。俳句刺激は、極めつけの名句 1000 (角川, 2012) の中から天象、地象、明暗、植物のカテゴリに該当する俳句を抽出し、本実験に参加していない 4 名による予備調査で畏敬の念がより強く評価された 45 句を選定した。水墨画刺激は、国立文化財機構所蔵品統合検索システム等インターネット上で利用可能な刺激を 45 作品選定し、334×500 のサイズに統一した。標語刺激は、交通安全や税など 11 カテゴリの標語をインターネット上から収集した。

2.3. 手続き

参加者はまず、俳句、水墨画それぞれ 5 作品ずつのプレ鑑賞に参加した (図 1)。評価項目は、美、作品への畏敬の念、作者への畏敬の念、創作困難さの認識の 4 項目で、それぞれ 7 件法で回答した。先行研究では、感嘆を測定していたが、感嘆が畏敬の念と類似していること (Keltner & Haidt, 2003)、俳句鑑賞と畏敬の念の関係が既に明らかにされていることから (Hitsuwari & Nomura, 2022a; 2022b)、それらの項目を採用した。次に、創作群は、「桜」という季語を与えられ、20 分間の俳句創作課題に取り組んだ。俳句創作中に感じたこと、考えたこと、作品の断片などを全て自由記述で記入し、最後には出来上がった作品の中で最も優れていると感じるものを回答した。一方の統制群は、俳句とよく似た 5・7・7 の構造を持つが、文学性・芸術性が低い標語の鑑賞を 20 分間行い、創作は一切行わなかった。続けて、ポスト鑑賞課題に取り組み、俳句、水墨画それぞれ 20 作品について、プレ鑑賞と同様の項目で評価を行った。その際、「最初に行った鑑賞・評価の時と鑑賞の観点に変化はありましたか? 変化があれば、どのような変化があったか教えてください。」という自由記述の質問にも回答した。最後に、人口統計学的データを得る質問紙に回答した。

3. 結果と考察

3.1. 俳句創作の有無が俳句と水墨画の美的評価に与える影響

測定した 4 項目の記述統計値と t 検定の結果について、刺激別 (俳句、水墨画)、プレポスト別に示した (表 1)。どの項目についても条件間の差はなかった。プレ鑑賞の俳句美得点を統制し、条件がポスト鑑賞の俳句美得点に与える影響を検討したところ、条件の効果は非有意であった ($\beta=.08$, $SE=.13$, $t=1.07$, $p=.29$; 図 2A)。同様に作者への畏敬の念、創作困難さの認識も条件の効果は非有意であった。一方で、作品への畏敬の念のみ有意傾向であったが、効果の方向は仮説とは反対となり、統制群の方がポスト鑑賞の俳句に対して畏敬の念を感じているという結果になった ($\beta=.14$, $SE=.13$, $t=1.87$, $p=.06$)。水墨画についても全 4 項目において、条件の効果は非有意となった (図 2B)。

これらの結果は先行研究と異なるものであり、芸術創作と鑑賞を同時に盛り込んだミラーモデルも支

持されなかった。その1要因として、芸術ジャンルの違いが考えられる。先行研究では、創作それ自体が影響を及ぼすよりむしろ創作過程をトレースすることが、その後の評価に影響を及ぼすことが示唆されていた (Matsumoto & Okada, 2021a, 2021b)。つまり、俳句は、誰もが創作体験があり、直前に創作せずとも創作過程をトレースすることは可能であったのではないかと考えられる。しかしながら、創作群のポスト鑑賞時の自由記述の中には、「俳句の作成を行った後は、俳句を作ることが難しいと感じた。」「俳句を作成した後だったので、その俳句の読み手がどのような気持ち、考え、風景を読んだものなのか、素人ながら思いを馳せて考えた。」等の回答もあり、たしかに一部の参加者には創作の影響があった。俳句は教養や前提知識の有無が鑑賞、好感度に強く影響を与えるため(佐藤, 2007)、折り紙などの視覚的に美を感じさせる刺激と比して、言語芸術に対する鑑賞・評価プロセスの分散の大きさが示唆され、芸術のジャンル、すなわち創作過程において求められるプロセスの相違に応じてミラーモデルが必ずしも適用されず、代替的なモデルの構築の必要性が新たに示された。

また、もう1つのありうる解釈として、非創作群の標語評価課題が単調過ぎた課題であった結果、ポスト評価の得点がさらに高くなってしまったことが考えられる。非創作群の課題の妥当性を検証し、よりよい課題を設定することも今後の課題となる。

3.2. 創作困難さと美的評価における畏敬の念の媒介効果

困難さの認識と畏敬の念、美の関係を検討する媒介分析を行った結果、俳句の創作困難さの認識が作品や作者への畏敬の念を媒介し、美を説明することが明らかになった(図3)。この結果は、先行研究を拡張し、困難さの認識がどのように美と関連しているかをより詳しく明らかにした。畏敬の念は、美的感情の1つに分類されることもあり (Keltner & Haidt, 2003; Takano & Nomura, 2020)、先行研究では、俳句鑑賞中の畏敬の念の喚起と美的評価の関連が示されていた (Hitsuwari & Nomura, 2022b)。また、アーティストが作品を作る時の困難さを認識するほどに畏敬の念を感じるという結果は、畏敬の念が、並外れたスキルやタレント性と対峙した時にも喚起される感情であることから説明できる (Graziosi & Yaden, 2021)。

3.3. 制限事項

先行研究では、実験室において創作及び鑑賞を行っていたが、本研究は zoom を用いたオンライン実験であった。創作中の自由記述は、ほとんどの参加者が集中して創作を行っていたことを示唆したが、多くの人が参加しているオンライン環境と実際の創作環境は異なり、結果にも影響を及ぼした可能性がある。

4. 結論

本研究では、俳句創作が俳句と水墨画の評価に与える影響を検討した。創作経験によって、好感度や美的評価が上がった先行研究と異なり、創作が評価に影響を与えなかった。この結果から、芸術創作と鑑賞のインタラクションは芸術ジャンルによっても大きく異なることが示唆され、殊俳句においては、ミラーモデルも支持されなかった。また、創作困難さの認識が畏敬の念を媒介して美的評価に繋がる新しいメカニズムも発見された。今後の研究では、さらにさまざまな芸術ジャンルに対して、鑑賞の一側面だけでなく、創作との関連を含めた検討がなされ、芸術分野のみならず、創作と鑑賞を行う教育場面にも応用されることが期待される。

文献

- [1] Belfi, A. M., Vessel, E. A., & Starr, G. G. (2018). Individual ratings of vividness predict aesthetic appeal in poetry. *Psychology of Aesthetics, Creativity, and the Arts*, 12(3), 341-350. <https://doi.org/10.1037/aca0000153>
- [2] Geyer, T., Günther, F., Müller, H. J., Kacian, J., Liesefeld, H. R., & Pierides, S. (2020a). Reading English-language haiku: An eye-movement study of the 'cut effect'. *Journal of Eye Movement Research*, 13(2). <https://doi.org/10.16910/jemr.13.2.2>
- [3] Geyer, T., Würschinger, Q., Kacian, J., Liesefeld, H. R., Müller, H. J., & Pierides, S. (2020b). Reading haiku: Semantic distance and the 'cut effect'. 'To Sing the Haiku the American Way is a Beautiful Thing': The Haiku of Etheridge Knight, 9.
- [4] Graziosi, M., & Yaden, D. (2021). Interpersonal awe: Exploring the social domain of awe elicitors. *The Journal of Positive Psychology*, 16(2), 263-271. <https://doi.org/10.1080/17439760.2019.1689422>
- [5] Hitsuwari, J., & Nomura, M. (2022a). How Individual States and Traits Predict Aesthetic Appreciation of Haiku Poetry. *Empirical Studies of the Arts*, 40(1), 81-99. <https://doi.org/10.1177/0276237420986420>
- [6] Hitsuwari, J., & Nomura, M. (2022b). Beauty and Ambiguity: Japan-Germany Cross Cultural Comparison on Aesthetic Evaluation of Haiku Poetry. *Psychology of Aesthetics, Creativity, and the Arts*. Advance online publication. <https://doi.org/10.1037/aca0000497>
- [7] Iida, A. (2008). Poetry writing as expressive pedagogy in an EFL context: Identifying possible assessment tools for haiku poetry in EFL freshman college writing. *Assessing Writing*, 13(3), 171-179.

- <https://doi.org/10.1016/j.asw.2008.10.001>
- [8] Ishiguro, C., & Okada, T. (2021). How Does Art Viewing Inspires Creativity?. *The Journal of Creative Behavior*, 55(2), 489-500. <https://doi.org/10.1002/jocb.469>
- [9] Keltner, D., & Haidt, J. (2003). Approaching awe, a moral, spiritual, and aesthetic emotion. *Cognition and Emotion*, 17, 297-314. <https://doi.org/10.1080/02699930302297>
- [10] Leder, H., Belke, B., Oeberst, A., & Augustin, D. (2004). A model of aesthetic appreciation and aesthetic judgments. *British journal of psychology*, 95(4), 489-508. <https://doi.org/10.1348/0007126042369811>
- [11] Matsumoto, K., & Okada, T. (2021a). Viewers recognize the process of creating artworks with admiration: Evidence from experimental manipulation of prior experience. *Psychology of Aesthetics, Creativity, and the Arts*, 15(2), 352. <https://doi.org/10.1037/aca0000285>
- [12] Matsumoto, K., & Okada, T. (2021b). Imagining How Lines Were Drawn: The Appreciation of Calligraphy and the Facilitative Factor Based on the Viewer's Rating and Heart Rate. *Frontiers in human neuroscience*, 366. <https://doi.org/10.3389/fnhum.2021.654610>
- [13] 黛まどか・茂木健一郎(2008). 俳句脳—発想、ひらめき、美意識 角川グループパブリッシング
- [14] 佐藤手織.(2007). 熟達した鑑賞者の俳句の好みと性格との関連性. 八戸工業大学紀要, 26, 139-147.
- [15] Specker, Eva, Tinio, Pablo & van Elk, Michiel. (2017). Do You See What I See? An Investigation of the Aesthetic Experience in the Laboratory and Museum. *Psychology of Aesthetics, Creativity, & the Arts*, 11, 265-275. <https://doi.org/10.1037/aca0000107>
- [16] Takano, R., & Nomura, M. (2020). Neural representations of awe: Distinguishing common and distinct neural mechanisms. *Emotion*. Advance online publication. <https://doi.org/10.1037/emo0000771>
- [17] Tinio, P. P. L. (2013). From artistic creation to aesthetic reception: The mirror model of art. *Psychology of Aesthetics, Creativity, and the Arts*, 7(3), 265-275. <https://doi.org/10.1037/a0030872>
- [18] 植阪友理・光嶋昭善(2013). 創作と鑑賞の一体化を取り入れた俳句指導-国語における新たな単元構成の提案- 教育心理学研究, 61(4), 398-411. <https://doi.org/10.5926/jjep.61.398>

表 1. 記述統計値と条件間の t 検定結果

	Creation		Control		t value	p value	d [95%CI]
	M	SD	M	SD			
Haiku							
Beauty: Pre	4.99	.70	5.05	.93	-.42	.68	-.08 [-.45, .29]
Beauty: Post	4.77	.77	4.95	.92	-1.11	.27	-.21 [-.58, .16]
Awe for Art: Pre	4.49	.89	4.47	1.19	.06	.96	.01 [-.36, .38]
Awe for Art: Post	4.59	.86	4.82	.91	-1.43	.15	-.27 [-.64, .10]
Awe for Artist: Pre	4.53	.96	4.57	1.20	-.19	.85	-.04 [-.40, .33]
Awe for Artist: Post	4.61	.91	4.79	.98	-1.04	.30	-.20 [-.56, .17]
Difficulty: Pre	5.06	.91	4.91	1.07	.78	.44	.15 [-.22, .51]
Difficulty: Post	5.10	1.00	5.22	1.03	-.63	.53	-.12 [-.48, .25]
Ink painting							
Beauty: Pre	4.96	.81	4.93	1.27	.16	.88	.03 [-.34, .40]
Beauty: Post	4.94	.70	5.03	.99	-.53	.59	-.10 [-.47, .26]
Awe for Art: Pre	4.73	.89	4.72	1.24	.03	.98	.01 [-.36, .37]
Awe for Art: Post	4.79	.73	4.90	1.02	-.66	.51	-.13 [-.49, .24]
Awe for Artist: Pre	4.80	.97	4.80	1.31	-.02	.99	.00 [-.37, .36]
Awe for Artist: Post	4.84	.80	4.93	1.07	-.53	.60	-.10 [-.47, .27]
Difficulty: Pre	5.50	.79	5.47	1.14	.11	.91	.02 [-.34, .39]
Difficulty: Post	5.48	.84	5.47	.95	.09	.93	.02 [-.35, .38]

図 1. 実験手続きの概要

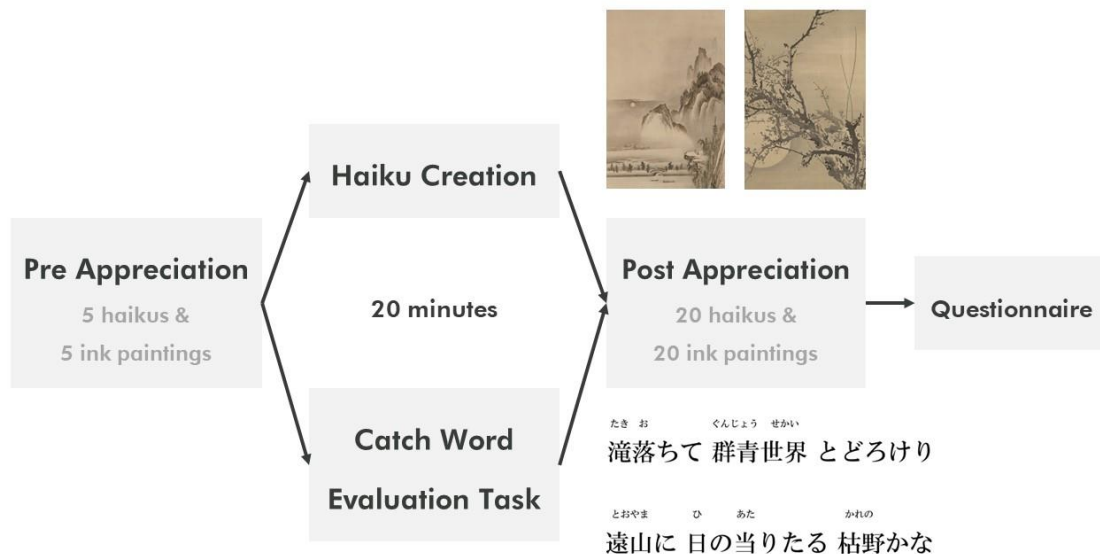


図2. 俳句(A), 水墨画(B)における各項目のプレポスト変化量

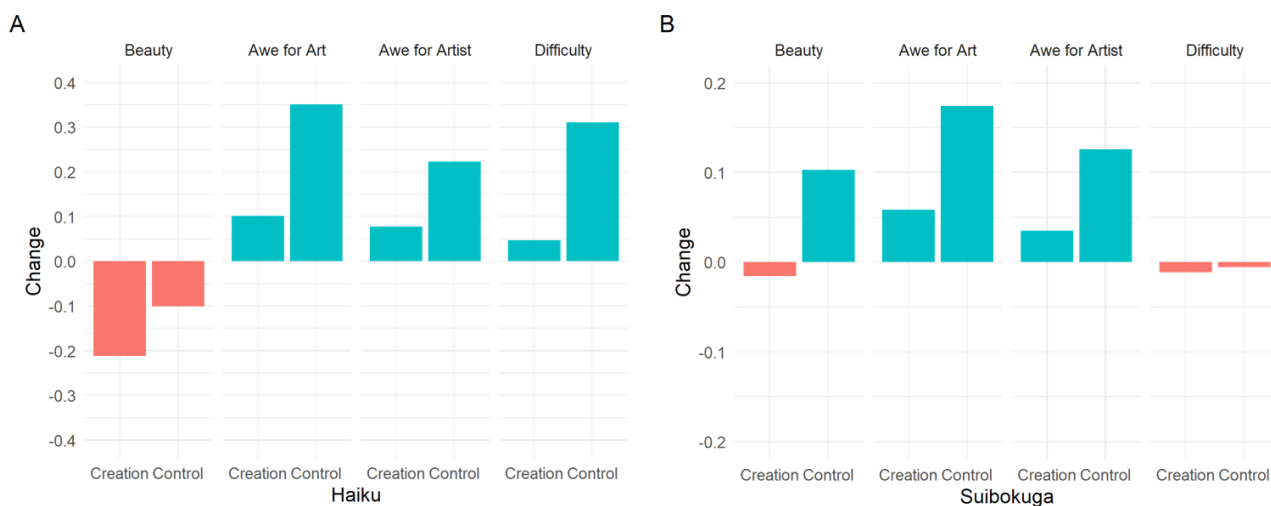


図3. 俳句の困難さの認識が作品(A), 作者(B)への畏敬の念を媒介して, 美を説明するモデル

